

京都大学瀬戸臨海実験所構内で穂の中軸が二股に分かれた 2例目のエノコログサ (イネ科)

Shin KUBOTA: Second finding of a bifurcated ear of *Setaria viridis* L. (Gramineae) in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University (Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan)

久保田 信

これまで京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の構内の一箇所で、2000年と2001年の9月に計4個体のエノコログサ *Setaria viridis* LINNAEUS の穂が分枝した稀少例を報告した(久保田, 2002)。その後、構内はもとより近郊の各地点でこのような例は発見されないままであったが、今回、2008年9月初旬に構内北浜の1地点、すなわち洞門のすぐ前の石垣と接したコンクリート製の階段で、そこに生育するエノコログサの中に二股穂(図1)をただ1個だけではあるが発見したので記録する。

二股の花穂を持つこの1個体は、これまでのものと比べて分岐の角度が大きい特徴があった。このような穂が形成された原因としては、他の稈に形成された穂がすべて正常な形態であったことから、種子発芽前後の突然変異ではなく、穂の原基形成前後の突然変異、あるいは特定部位への機械的なダメージなどによって一種の奇形を誘発した可能性がある。なお、勿論、その付近に生えているすべての穂は正常であった。

引用文献

久保田 信. 2002: 穂の中軸が二股に分かれた和歌山県白浜産のエノコログサ(イネ科). くろしお, (22), 29-31.

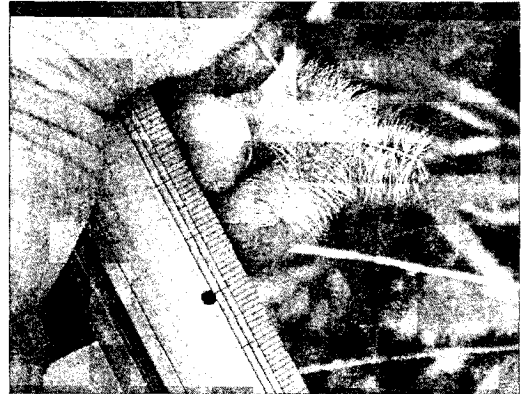


図1. 京都大学瀬戸臨海実験所構内の北浜で発見された穂の中軸が二股に分岐したエノコログサの穂(構内5番目の個体例)

Fig. 1. Fifth individual of a plant with a bifurcated ear of *Setaria viridis* found at Kitahama, Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University (Shirahama, Wakayama, Japan).

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町)